東海道中膝栗毛

二編

上

へ遠13
1164
4

序

予嘗藏の賦を作其略よ云土橋を
渡く又虫橋を見る悔も渡りて家を
添ふ如く藁本を出く亦藁本よ又る孫
淡州もく就牛駄がしく出き来り
続虫るかつか燒翁ハ今井翁旅の往
先をおりし涯簸よ醉鳥あそる蓊懷

へ 13
1164
4

ちの伊勢守氏の被官と称し本領泊
の屋敷に亀の御殿と称する
事なく大井川の岸の行潮を橋の脚
長くとも拘とひ申さず雲霧い
裸虫の出るとも赤裸の御殿より作り
おかせ万亀の長とく万亀の弄物よ
出るとの御殿の作と御所の

皆心得の腸を断ちとうきりの愛
酒とも言ぐて亀の運命を居て猫
の尾と月の五衣よ言ぐて
うまいのうまいのと十万両金の主みて
こ飛の水千一双の所蔵色とこの一疋
の口付猫の値と一冊よと負く結構
とぐすり伯楽顧と奉庭仲うの

[illegible]
中絶せし[illegible]文力[illegible]と[illegible]一緒ごとく
京都[illegible]りいるかつ[illegible]迅速のうつるよ
駿河の情[illegible]を絶く全篇の功成
始終[illegible]毛一日千里[illegible]

滑稽[illegible]五十三駅二編巻之上

箱根より三嶋エ三リ九十丁

長明が東海道記に曰はく[illegible]の[illegible]あり[illegible]
報の書[illegible]と[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]毛二篇の序[illegible]ヒヤリく
[illegible]
[illegible]の[illegible]の八丁[illegible]
[illegible]

伊勢へ七度熊野へ三度愛宕さまへは月参りの
大願を発しながらもまだ参らず弥次郎兵衛
急がばまはれよ道は中川と大工の親は悟きと
これ滝
気もつけ箱根の山の九折ながやや
大きな旅の魚の尻尾おかみ山
海の吉日
ぢけのまた目へまいるせあやふ
せらヲイ一盃くんま　トせうぶをかけるいかちで出れ

つまらぬ　弥「ハハハまだあすいは立てる
じやアあるめへか　コウおめへさんの中の弥次
「おもしろいたちやうす　旅での気がつき
の旅へよおなたがたのまでもちよぼくりや
さまじやア弥次郎のうちのも出したじや
あたりへのおかみ「うちのまんはあかう旅へがむずかし
気をそらせまいとおもひ　ト四ヨあるの「ヨイく　いろ
ぐんせつかせうと　トせうぶのさいうのあそぶをと

まごの「めでのあるこがけんをなさるなちうり
が法ん見入る三郎如行ら完ゑがからくうちこそ志が
まおもあるこう法ん見ゑアちんぐ入トらく
やるるくまいゑ「ヒヤア出れ扇の先生どめざ線うへを
かくぐらいと
らぐうめあまが先生あるやアうぬいくいつけぐ
ち「ヒイレく又中ちうぐうあるあまうあるあの入の
繋と「ヲるくあるのうくやつちんゑ見ゑ
あぐうめうくナレト法ん法ん法ん法ん法ん法ん白い

よ機とうぐうと新の趣ゲちちくちくちんぐべ
こる男ゑ見入るとうあるこうの林
「ツリヤアちぐ人なくさヤ「ちくトうくさうのの
やのうあうゑちちくこちうちぐ
ちちとのぐらくゑちくまくくこうこうこる
どちぐ今の女どもがおいうぐ新をちくうこ
そのゑ繋つくいいくちんどめでも趣野へちぐつく
ちんぐ林「ちくちくぐよちくのま機とちちれ
徹ちちのぐのいもがさぐつくめううヤ「ヤアく去

アヽヤア天窓(あたま)村ドヤア孫へ名川ちうめんうしぞなさ
さ 孫「よめへゆるべるなるとえんとを絹(きぬ)へ
いきろくそまたなりまくられるんおりしん大きさけさ
よあそはろつく顔(かほ)もそまぞみれさろふきさねく
おとくごや「そあよどうりそつるぐさんよめぐひ
ぞくおり何さ 孫「五十二せんてへよめへがあくじけ孫へら
ちうんき耻(はぢ)をうくいや「寄世 孫「りめんと主なりう
よめぐひとおちぶへるへコレおしやア天窓(あたま)といつでも

猶(なほ)ののんどしぐや「そふまさごとうつく 中孫屋がなぞつ
かねののかさりくゑまりまやア売あへしきぬを才る
ともも孫へを ヱてまくよろぴのそむれかぬおぐ
歌(うた)もあしみか

よめぐひとおりめくをあるめんどしい
さくて耻(はぢ)をさらし なりなり
そまてりらぶと石をうかる孫孫ら芸へ
たがくるよ嫁(よめ)をそ おもしうぶと石

うるかの雑所よりの帰りやして
新くに山中とらへる建物よりいる長い表側の家
屋敷とあるべて「おやもとこまるんまアーぐろ絵
白もおぐりやアもちよヲなぐろやアーいり
せんめ飯もよヲあぐろやアーお椀こまるんやア
く「ここ八ちゆと絵んでいうよトちやあくこんいの
ちのまくおるもけどもふんとかぐよまこちもこ
ちぐうこをこるもあるいの絵ぐさあぐろでなをこ
りうこぐろ大よあうりあるトおりくの「おくいゆう
こうり行のこまるとうりこ一人のこまるとこ

たくまどのぐあう鯉やぐぶハめが峠まぐもれで
ゆこうるの「ろんこそんぐんあべよがあん
どんよぐんこをんぐろべいこのもれとうこ言のよ
今二人「コレこりやアこいがコノやろうがおこゆうろこと
乃ろく去ゆうりんつこ絵こやアぐろこ絵ぐもけ
「ろんおうう小田原の甲斐あぐゆこゆんと
りうこ長こぐあんまり絵がなぐくてお医これの
よぐころゆる「九ぐこの「やろうめりアユ面がこいう

きをなるりのをきやアがる おろ〻 ごんぢう円うう 丸
そぐうでおろをやアがう 右たであがぬうもあやア 右
今をやらうをひつぞぐして 袋ろとをりるべう
がうりやらうの 枝じやアあんめへ そんなりんが
うをまるりんうというをんなうこつをよヲき
ろうりく 紙 麩 ろと一まんうりくまをとちへ
そのうろとうん中うのぞんげを 畑ぐ 湯 よつ
ぞうるとりくひん 袋 でおいうをぢまぞんど

の 去りのとがらく あ中ろ〻ろまて 右りりく
しん 紙 ろ〻ろ八ろのて 出のそ〻 ろ〻ておく たろ〻ろに
いり中ぞそころを 去出くゆくと 板 大ろ〻まろ〻ろんろのく
ろう 幾人 寺人 ろんのろぞをろそて 中ろ〻しろ〻ろ〻ろ〻ろ
中ろ〻ろろ〻ろ〻ろけろ〻ろがあろ〻ろ 成 板人 あかさ
ぐろいろ〻ろであろ〻ろまろて 紙 ろちろ 去ろ〻 ろ〻
〻〻しもりろでぐろまろて あろ〻ろりんりどの 紙
でろ〻ろまろて 紙 ろん 中ろ 十右 ろんざあんろ〻ろ〻ろ
あろをゆ〻ろがろ〻ろあろ〻ろ〻ろ八ろ〻ろ〻ろ〻ろでぐ 紙
中いろ〻ろでぐろまろて 紙 織 田の八丁 畑 ぐろちろ

が門をとちめんや法師〻〻人といつく間口が九尺
五寸裏行が四十四かど年紀の古屋ばくりでたを
るものゝ十石ハアそのうちでおぞうまもろ〻〻こんざ
るをといふうとぐるいたなさうちがおきゝで
まつくあゆもト石ハアそんなう悪地代で法寿い
いろう〻こんい千八百五十石おあ人おぐごぐり
ゆもう口銭を物米でもこ二口割こつゝやせう〻お
ゆへゆをいふ十石ゆゝへ又地面の夏賣のお作

ゝとぞんじまゝ〻〻五十石そんなうちに口ア後へろ
ちゝアちちゆとあるゝ人仕の天人や十人を作を
てあるゝ紀ゆもがをもでや下駄が作りくおりろく
後へうゝ此おゝをひゝうつゝそ手間申してあるくも
ものゞ紀ゞ後十石ある後さゝゝあぐまうまもうイ
又あるゝのおゝろゝ金ぞんれうくそんじて藤
まもがいゆもや法華の門徒ゝ人のあでお月り
かゝゝまゝゝ対あるゝ自とゝげく樽ゝすぐつく

ぢごくのそこなるかまのなかにて
ものすさまじきうめきをいたすこと
おびただしく
けらくさでぢごくやせう
ぢごくのかまをあけてみるとぞんじまし
ぬきべ一ぬきかくれたるまさと
イヤおやかたをあるよくらうもの
くなんとちからいっぱいぢごく

十五
ぢごくやせう
七面坐
題目の歌しゅうの
七面坐とらの
ありけるか
あるる三人ものは
とくてもあるとかなるか
アノ
ぢごくやせう
ナレトふぞうそのもんぷんと

子供「こんどハおいらがばんだ二だい　そんならぜにを
よこしな　弥「やろうともウリヤ　おつきな錢をやるハ
トほうぜん　よりもちこうきみのあたまく　北八「こりやおくらく
くろをひやかのきらゐんをとられて入そ　給げ
十返「あの川ハあれしらへ嘆の日がいろもさらくとを
やせり　三人ども
トおかずに流よりも日も暮まちかづき　入相の
かね響よりひびきわたるも猶いそぐ　浮ぐけの浮嶋
おんさをてと急ぐ　世紀の世の声のなかけ　おされば
つかれの淋しくなりうるやあもん　せんしゆう

三嶋ヨリ沼津へ一り半

女「お泊り
ゆへつくと　おもてより
よびたつる女のこゑぐ〜
なさんませく　弥「エヽ引ぱるなそでをちぎれる
泊るべいに　女「もんおら　サアおとまりなさい　北「おれをなるべい引
トあげるもつるよ　あれさ　あんまりあるコツイ夕しまきつかまりたが　痛い
めあんまアさんびさくイリ
ひまぜぬかる月のすまる懐紅をうれまおんまぜ　北八
　きゃうの乳ふ「さあ　おちのつきこて　北八
あいうげんまうく泊りかる
ませおさんどんおとめりもぐよ　弥次郎の手の「コレハおちうや

どさんかんおはまこうなへおらくこうはくげがくたもの
六人さのもへイそまへヤレちやアこさこんめぬうおはの
とこうそちんおこまの数そあろうフレ先お馬郎と
ひとりおあろうお仮もこうらくさもぐよおくつこあるこ
いまも清兵人こもあうとあるかの「お濃よおりる
こんまも孫ドレ者ろうまんろうトとぐらよなくこ
女「モしそこいかうでござんまもこうちくこ
あまこへトゆどの十者「とこの品
ようの菓苞ハ「とこの品

ろ盃中このちゃ蘆酒よろうくてのくへやまう
はは孫ろうあるうくつこはのこのこ
しるこのちくとうここくこ十右中こうにこうはのこの
者蛾こそ藤人の田こ「
ろうくこくこくこ
おのろう者地を酒中もあるこどお馬をハイ
こうこいあ田こ
烟名こ天川春平こ
孫「こうこ城あ山清れこ市こ人とかもこ城
ちこ一こ人こ分ここいあのこうこけこ分ろうおこんぞ

あるくの勢ひ角へどもあるまきまき
「ぐん」年い三十ヨあるやあるもふもやあるやう
そまいおちうおうさあい「ぐんぐん」
ちんぐのまもそもの角へさあやめ
ぐうは八れたしあるのぐんぐんであるさ
「ぐうく」アノ又ばいどうもまもまも後
「ハア」ちんいどうぐう「ちんつるくちんつるちんど
あるまま「ア」やまげは猫もなげ

まもう「ぐ」「ぐ」ぐんくあつちよあもいんさ
トは皆ぐの女ぐんとうちうサアおあうあうあんまヒコレ
ちやアあんんどんとうもこの仮性ウうもこる
ちうわ「と」ちよまやアちうものいかしうの女
「このあつぐ本当法ふの遊おうう者ち如何
がのうぐうぐんまもおさうアおうびるさん
まも「ぐ」「ぐ」おりうう異常「ぐ」つよ云いと
つよでもおぐうまあハマア十人おでおさんま

やす「サアく十人まへのめしがかりかゝくろへ這入ぐんな
女「さうさんなら只今 トつめたそくるくわ杉湯 十吉「おめへさく
アおまへのめいりぬおそがしふ孫めしやアどふ
だ 十吉「イヤまだ〳〵ハアノ田の女はさつしゆく合点
おり申せ トはつ中のめし 女「さうて こまいは如何でおざんまんサア
おく為さんまゐもしも今のが気まりくコレおかまんち
アちへ春まさるドレむりひまいうぞよ トゆくなど女を立て
このあいだしかぞるがころ〳〵はけ門あつたかれよ くらかまへ
とゆうそとういくらにもとしつか中のじやうの女

ゆく女のうしろのすがたをつく〳〵 女「サアく〳〵ござるさうく めしかりけ
見てゐるをも知らず出る
「アレハア かうくつ人 つれきまんくへはもつてきたさん
るは 今日ありのめし しみせハア出たいときア出るやア
かりおつ
おかみさんサアおかみさんけん出おさる トゆうくふ しらずに
出かけくるひとりぐんの めんまるんさんの女の付
るまでそこそこのおひとり今ひとつまふらの
おつさいとのくるたてものめのこまられおかれやうの
おひかうとでおめんのくしちくと中りけるつき
ちとの者をるとはよ 男「サアく 後へこまる更 時々の女中
まうそろしくこてる
膳へ〳〵酒をもやせう 女「ハイ今まで出しまして トぜんをとつて

ニヤアいてきうしさろうぞ 女 サアひとりおがるさまさせ トいつてこく
まるなをもちつて
トーくちのんでおまへおくと 女おけさ コリヤハアマアしみへま ト春
てうくておけまさそ しやわ八へさとやわ八
のんでおつかへさん お聟 あららどんハアあるまよがくぐり
やすひとつのきませく つ聟 まうしらアをあろうよのとほし
ねくヤレさそてるの尻をうつまおけさをあるてとし 女おけさ
さんおまへちのとこどやアこんまこまよヲさして
ト 折古 おけげうつりまをしておるこんあるしの 聟 コリヤハア
のるのみ大かのりんさしとめつてみる
おるぐでもそう走るげでのまうしらがせとの今 やぶさん

が野尻(のじり)の表十さんヱ貰てみるつきげでくるよ目
膳(まん)らしく円ちうみりんヱひろうくまそうろことしも
ゑアあの毛のきそすのをぞくまいでくもくろん
うろたくひさはくてからてサア文ろうちやりさア
めし 女おけさ おけさんおまへの猪を見せさまろ
いや 聟 おもうやあざこへなし トくわをそむけるとむかふよりてまくいかりのくしまさん
あんまそぞ兎めくう 女 ぞあちやヤアコリヤ 札の辻の方さまへ
むさんの役をさアよつ 聟 あつちりさろヤア トいうてくろとたくまね

そしてつかへさまもそのかはりまたこゝは出あひさ出かけるこゝにとまる人
てもあるまいあちらのまへがたへまゐつておりきとゆくしてんやうに
く出てゆるしてもらうしお主えの女中のおそべりおきさんま
申まりくだくしとおまへさんをと
廿　十吉「扨も二三しのつぎのまへ孫やせう　木「十二サいろ取よ
あけて人　十「コレハめいわくな　女「ヲヤアおかまひでもあらうへ
きみさんまし　トよぶおきんとるびとこゑとる
へまくあつさと志きの出ちち　竹「モウそぞろ志男りまつさら
孫はうがおいそぎよろしく
くつまきぶへだんさアまし　孫「まつとあつらへまうかせ人
みいもさんアまゐ孫へうち門とをあし　でも志る

廿人　竹「コレしらずよかまいなアおまへのこうかやアと
つぎづらしてあるもうるさへこてア　ごぶんなへ
めし　孫「五二ながいんも氣がはやておめへあいく
つぐ　竹「コレしやハアお腹さまのとしごよ　孫「ふく十三七ツ
でもあちとらがゝらでんぶおしやまごの　竹「ホしし
もしらアこんだ此中出るさアから来てこれのところ
きかくしやさアあぶなくしてよろんべいかあなどう
お前どのおこうやア氣が済まいてあらとみしかれ

茅のうとにあるところそこの足さアまこーぐうて
のぼけあるところ（弥）「ヲイ」くかくうく（竹）「ヤ」ハア後づう
いうんぐまそこそこぐのまあとへさぐりゆるうとまと
とそこへ（上）けん出あるところ（弥）「ヲイト」ちゆうちうく（トまぐと）
ちうちうう
ぶうちうぐうくおぐんけうちわハがあいうさのおけ先もうや鼠
ちうりもいうくあまぐもこれもうぐくしんばりやけうや鼠
鼠もあけゆくまうこ助ぐるのちぐの高もこへそそ
賛戸（ヒど）まなくまの（いの）まと（とや）足（ち）と長（ふ）ゆるのおと
まぐあうさおくる狐（よ）あうこの瓜（ち）ゆ心ぐりあん

どうのあうこもそうくへけのまうへまうこてゆこ
うのうこけうのつうこまなーぐうちうちのまうおうさうけ
それあうこうこれうこうがゆぐてうこうぐうちうくうこけ
ぐうこうさあうこ十六日とうこゆ一ゆゆんうこうこうの
ちうぐんちゆハぐうこうの中へうこけハぐうこ日とうゆ一
ゆぐうこうぐく　トあうこゆとあけうこうとちうちうこて
あうこへうあうゆハうこゆ長のりあうこうこうこうぐうこ
りあうぐうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
うこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
「アタうこ　あうこうこ市もゆ井ヤ」うこ月とうこ月とうこ
月とうこ月とうこ

（休）「ゆとりうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
まうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
まうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ

「ふたりのまのちっぷんがさんの中うちへ出さの
ぐるコイツちっぷんとめるるんざ「子」ちゃ
まわどやア極くアレちぐでらいっぷく「仲」あんざとおも
つっこがさざアりーいりやアゆびとあの手へいまめ
さうとおつっちまちゃ「女」かこ二
そんちるさんまートあまあ「仲」とあけう極ぶうけおる
ちるまあぐ「仲」ヤレくくとんざめよあつさ「仲」イやえや者
ぬ者代者代者おけまちちんぐちうゆうちゅ

ちとぐあいさハ〳〵トそゝくとうゝとづけまぐ表あけ
あけく ちぐ〳〵 まぐろそゝる　ゴもあまぐびと又もまゝぐそゝく
中ゴゝそゝハおうゝさまが

よ孫ゝちと孫ゝる側ゴハ源兵衛も
そぐゝいゆゝゆびとゝうゝくを
おぐぐく孫ゝもいゝそゝとゝくゝさ
ちゝぷんよくゝらへらまゝるゝるゝさま
ちゝも石兵衛のぞぐんぐをふむ
ゴゝそゝ表も昭彩べ寿の孫も新彩のゝゝ

あらくまよ驚たまして、衣食鳥の羽ちらく唱歌う
にまぎく周さわくわきミ紫ミバ縁ほより縁もいぐ
そをみく汇東根をえる門　女 中の「相ふうへどとく人いきるゐ
ふ門さ　和「おんま十五六へどく〳〵」　孫「大かく雲海ぶあうめ
さゑへ中ろう世　ト ゑゑろだ りそうかうるすゐへそやりうの
まろそもくるまぐい手に縁り　ろうまうん うきちまうみげ釣まんがいへるまう
おかうを見へまりめぐきそ　ゃ バチがうそんのいうぬアノや
らうが風呂敷包も筆も縁へ大ぞとおいうぶ庵とく
ゐる門ふんく売中門さ、と見へる　和「ヤアそんなら徊ん

ぞなくなりやア売縁へ　ト そうかうを御も別条ハ縁へ
が　孫「イヤく別条があるよあぐ　ト やところうくどろうをとを出しあらく己まバ紙よ
てんぜ中門ががうりとかうの　孫「ヤアくとふしく　和「どよ
あ弟く己まべとゑへしきう
しくどとろう金が取まあつく売中門さ立く立く　和「こうのハ
大変く　孫「へく申ハ今のやろうめまをうくへられさコ」
女中泣声をと呼でくんなをやく　ト 女中ぶのめ せくうれ女ぶう
ろうそりとろの中うそとらうく中の　泣声「今うけく夜のう春く
ゑいの縁かきのまくうけさろうく
さそくとんぐてとであるまでまそ　孫「イヤきさ夜泣声

まゝごのコレたまら様へぞく　あんまお志なのたへつま角(かど)
とかくそうかやアおなさもうハまへとおさるふ
なぜおいりまさにおしまさねへてせく　〔さうはち〕コレハけ
しからぬおはまさ母とぞんじてちめこのででぶん
またも仕合(けさ)てあつてもきつぞたまさせぬ大
ちこうしたかうでも　〔孫〕うしたうとまさなどハそん
なでいくのじやア様へハなんでもアノお年の厥と
出せく　コレエやおりと刃そくなつさくお忘どでも

沙田(えんで)の八丁堀(ぼり)でせちめん屋の弥作まさ母とゆ門
ちやアおそらくおまへが近附(ちかづき)の人ま流(なれ)志らぬりのハ後
そうろうくふざこさやアうろとやてんおまふよりたくさまぞハ
しそ合羽(かつぱ)手傷(かしがい)の地積(つけ)ましく内のご見晃(おやぢ)のあつるハ円
サアお志なの厥(さい)めと爰(そく)へ出せすアぶなせく　〔さうはち〕あまさハ流(で)
雖説(えんざい)さうるそれおまさのどくな　〔孫〕三ニ　おまさのどくの人
ならなぐ　イヤ　四斗樽さ母があきまてつア　サア　四斗
樽(だる)めそころへ出せ　〔さうはち〕十二　おとぶるとハ　〔孫〕イヤヤサ　四斗

様とぐつそんでとめてうつ
ゆアうさぬも一つ先の
瓶ご那おまえ玉体る十二日ごろ
ら月様をとえん
ませう様とあ様へてこがあるものゆべうう今の
されまでおくのうちて様
様くわさい彼ノ月様が
様へ様サ月ごるイやくおのもいごくかコレ
様さんマア考づうこ様へかえそてはそいるも
のおうさとどやア様へたばまてきいろうちが
ろへどへもおうさが様へとあうちあるえ
さ

ゆうく考がわしたが内へでぐうての御前なうべおつ
しゆるもむごさが仏をいふも一ようおごけさるものを
やうべおまへうちの四蔵相といふもんざかちがへは
さコレ様さんおへつきんでもくでまう様どふも
おゆうこうが様へいさとはそ月様様へもあうと
ぐんまうそいるおそ様さんマア飯でも食様へ様ゆも
まつうれいきさ八様様さんマア飯でも食様へ様ゆも
へぬなトさうさ八ううご府中まぐいけべちうさア
さんぐんまるあてもあうう先一文なしで出う多

よ「トつかひのくりのぜうをまつわくゆりくとてのえくぞと
そうひおとまるべかのもしとぜまのところをたよりて家
くまろを出ずけるもころびけくごみのまひのゆく出せ
ぶつめまでもいつろうあまるであまるもむぞもとく〜ゆるだろう
くとた
どうぞなら

澆(こふぞ)の 楷(かれ)木(き)あり 花(はな)さへ それもせぐ
目とまつもちるおちの懸(おい)り升
小「孫さんそんあま力(ちから)を 蔵(おく)しあんまたぐそみぎ
うき 泥(しな)に世(よ)に伝(しら)ぬ ふどう驚(そく)
いのまるやみせ あきま 渡(ご)戸(ま)の 懸(ちい)

孫「ぎしやおかアりお坊(ぼうぞ)さまでもおくろん 小「おめへさん
ごとをいふ 孫「いづもゐどくへさうろうろ 小「十二サ久へおゆ
があるめんぞ 樋(ひの)口(き)をかうそゑもおいせさなまでいつて
おまやアダ外へずんがらうい 孫「そまでゑも モウ ひざゝく
てあるうまぬ 小「ハテまちあさんろうくまゝ京どうらうこと
ぼうつてさく十二洞(とう)があるうきなへいつてうちゃうち
でもうつくろひなせへ トいひつくながらつまをそうって
恵ちらくとゆくむうふかう快なうをを
うろぎし 入江 立イさうまさく 小「あんざ野(や)巫(ら)師(う)の章(づく)てん
おんそく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

沼津より原へ一リ半

足とゆてもあんと宿ろうきの茶やへそうろうのかんな
さゆうおごんまもてチヤおかしなでもきるさんませ
ぬろ　イヤあるの建場ぐくうんといわどんてき
ゆ〜と　ト　清あげをみんきくこうぐせ　仕と一人つまろう
おろよかろのろぐさうんと斤ゆてもろふんの
ぐろうだとうとろるが　女　おちやあがりませ　仕りよろん
このちゆあへさろか
どんぐの　女　ハイ　ハウでもおごりや　客　よんさけが
あ〜べちくと出〜あのろ　女　ハイく　三十四文のとあげ

ませうやア　仕　今ちと〜下まるのへなんがどや
女　ハイ　ハ文のもおごんまもて　客　ちくばつノ　ハ文の酒と
ゆ　客　文の酒と　客　ふるかふろ　仕　くまあ合ろ夕だろう　客
るさろ　女　ハイく　ト　ろそろうちろうぐさとりち　仕　コりやく
は　客　付よろく　客　者どもの　客　酒るるんがどや　女　三十二文
でおごんまもて　仕　おちろん　女　十二文　客　よんく　コりや
仕　動ろぐ　客　よも一ツのゆ　仕　絵屏風　子イ　仕　コりやむ
うよ大とろ　芸居　ろおごどもん　天田氏の門宅

ようく似よろこ「いろ〳〵あちらの今新ひようるあのご
あぞもようものぐざぐりまして「どれろく〳〵アノ
そこらの稼きようところくあるあごぐそんく
すア「侍なみ今ちこ〳〵ある春ぐ志ま「子ゑく「すア
勤足のつこそふなんがどやこりやくこの者どがいよい
ばこあまへぞ「ハイく「ロ十二文でおぐんまもチャ「ヲ
ようく「ト「紙のものようこと出けるかハ「すアハふ
ふ「アイかせこ「どあさもようおいで「トそれようこと
あこようきみよりそいろく〳〵たどりけようあ〳〵の
坂とりふ和よいろりよかのれあまこハゲちーらけろこ

去の茶道 乃くい体うもあ〳〵の坂

いざたぞとうやふ本のかん

侍このこと「ヒヤアでけこく〳〵お願こちろ名どのりのぐる
いこそんん「
「さゆうでおころうまもに私どもい茶家のとありで
おこまの原よ元侍うもてたこよ雑茶をいこ〳〵ま
もの「ハアそこもをを氏きのどくどやなるわどお
まの原のこ〳〵のいたろうふ「ヤおあの原と

ゆんどろぶうのこぐぢぶうまでぢ「どろぶう
こんゆどや「ハイ泥坊こゆん道藏のこんぐぢう
まで「ハ人のものをとれうる道藏のう
とぐろぶうとふう「さゆうぐぢうまで「ハ
又どろぶうとおるの死とふどやナかるどげ
せこく「ふよ悪へちとおるひぐぶうまん
れども右の泥坊ゆあのまーてきろぷう逃用いこ
まこ赤んまこうう大きゆ雑俵とふこーホ

府中まで来まべいう中ともこーまでぐそれ
までのホゆあるまでそそで成を成のさ合
せこゆうどのぐ毛とうるこふぶうまでぐあうへ
ちこんくとうませぬトこうさげるうんぐんの
「ホうそまへうのどく途中でものを求るいうぐ
へがおすちの雑家こうるまぐ求めくちうそふ
あこんるちんがどや「ハイ三百ぐゐにこーあげ
ませふ「そまへこうぢどや「ちこーをおまゆ

中ませう　はうこんぶ　中ぶくろ　のあるこうと六十文のはうこうもう　そまいあんまり　百六十一文のきそう　はうしんとおくあるはくたうませ　はうこんぶ六十二文のはうこうもう　千五どふも　成あらんぶ　清あ　きも　家巻どもうとんごおすのく六十三文のはうこうもう　イヤモウ　そんあるまえ文ずおくあるうてはあ　ぶがでさませぬこうはうませう　下ぶなよお買あるうくぐさうませ　丁

家いとんたんがじわ　はイてこうどくゆたん百文つぐまうまさとてうどくゆたんまたうこう百文なうまうませう　はうあるうあるよう百の二式てうどくいのうあうこうべてうどよ求めて　はうこうあうこうあうぶこのごぶうまも　トうんちゃくをモレ毛い安い　月のぐおぶうまも　拵うよしてもも　振付ぐうこでいはあ百がうのいおぶうまも　イヤ　身とも　母どもがあ人　孫五ぶ毛を　想外へのようあうあげどゆくゆ　イある

こんまごおあらうおんなあるんまちよおんなをがおん
こうとんようおんなうでおごうまん金額をなぐう
りんおいくつぐでごうまちあたくおんやとハイ
あるこハコウト三十七八こもあるこあるこまちが
分ごも商業已のこ〜で四十二文よまうなるそ
まんおこうおごうまちコレハ四換換ちて分
どもお殺の罪原作魯点りん商本法あること
こる同業でまうあるがその円で成どもがいつち

こくくくといひあるくくでごこるやこう
そまこよ又赤中こちのこうこんあるごどもあるごう成
どもごうこを涙材家才許よ仮くあるあるごこかこ
ハこうあるおごハこうあるおこへこうどや或
那おあくあるこまこておこうこどやうこおよまん
こるあこうこと九七八こもあるうあるうハ立こうどや
おごうこまちこ分十二こうこ百ろハイ十
こまごおごうこまちハコ三百ろハこうこんあこうごど

[illegible]

[illegible]

[illegible]

滑稽昔五十三駅二篇巻之上終